

2024_0112「夕富士（写真）」日々の理科 3445号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

富士山は関東平野の広い地域から見えます。関東平野から見ると、ざっくり言って富士山は「西」に見えます。関東平野にいる観望者から見て順光（正面から太陽光が当たる）のは主に午前中です。雪をかぶった富士山を眺めたければ、やはり午前中のほうが良いでしょう。

午後になると逆光になります。特に冬の午後2時を過ぎると、晴れていても、富士山がどこにあるのかわからないぐらい霞んでしまう日もあります。しかし太陽が関東山地の影に沈むと、富士山の山容は、まるで影絵のように復活します。

関越自動車道は関東平野をほぼ南北に縦貫しているのですが、東京から高崎方面に走ると、富士山は左車窓に見えます。「ああ、富士山がきれいだなあ」と思っても、運転中の撮影は危険です。そういう時は、鶴ヶ島ICと東松山ICの間にある「高坂SA」に寄ることにしています。高坂SAは、関東山地の東縁の前衛にあたる「岩殿丘陵（比企南丘陵）」の周縁部に位置します。下り線の駐車場のほうが上り線の駐車場よりも一段高い位置にあるのが特徴です。特に下り線の駐車場からは、越辺川（おっぺがわ）越しに富士山の方角が開けて見えます。有難いことに、両方の駐車場は階段で結ばれていて、徒歩では自由に行き来できる構造になっています。

先日、ちょうど夕暮れ時に高坂を通った時に、下り線の駐車場から富士山のシルエットが非常に美しく見えました。よく見ると、山頂火口壁に「雪煙」が見えます。山頂はものすごく風が強かったのでしょうかね。

（2024年1月上旬／関越自動車道高坂SA下り線）

